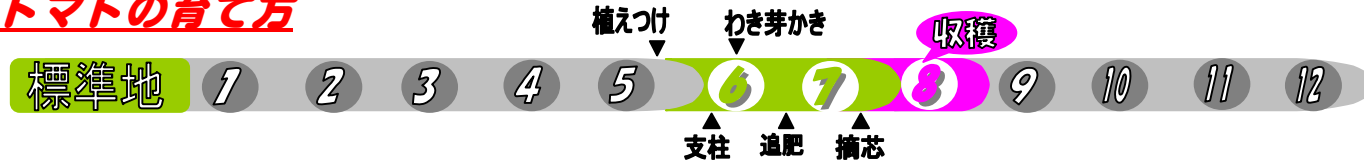


生活応援だより～野菜苗の育て方

野菜によって育て方が異なります。

ここではトマトの育て方をご紹介します。

トマトの育て方



左のカレンダーはあくまで標準地の場合です。寒冷地の場合、収穫は9月までにずれます。暖地では植えつけが4月中旬くらいになるのが目安です。

育て方の流れ

①苗の準備

②植えつけ

③支柱

④誘引・わき芽かき

⑤収穫



①苗の準備

花の色が濃く、全体にがっちりした苗を選びましょう。ポットの底から根がのぞくくらいの元気な苗がいいでしょう。苗が出回る時期は、まだ朝晩冷え込む事もありますので夜間は室内で保護し、遅露の心配がなくなるまで、植えつけは待った方がよいです。

②植えつけ

直径30センチ以上の大鉢を用意し、鉢底石と野菜専用の培養土（元肥入り）を入れます。根を崩さないようにポットをつまんで押し出す感じで取り出し植えつけます。1鉢につき1株が目安です。初めての場合、苗の大きさからは想像できないかもしれませんが大きくなります。花の苗を植える間隔で植えつけしないでください。

③支柱

トマトは実をつけるとかなり重たくなるので、支柱を立てて誘引しましょう。長く伸びる主枝を効率よく支えるためにアサガオのようにあんどん型に仕立てるのがよいでしょう。4～5本の支柱を立てて、そこに針金で作った輪を固定して支えます。ひもを使ってもかまいません。



④誘引 わき芽かき

充実した果実にする為に、根のつけ根に出るわき芽はすべて摘みとり、主枝を1本だけ伸ばします。できるだけ小さいうちに手で折ります。無駄な枝に大事な養分を取られない為です。また大きくなってきたら余分な葉もカットした方がよいでしょう。誘引のひもは8の字型にゆるく余裕を残して結んでください。これからどんどん茎が太くなってきます。芽かきや誘引作業は晴れた日に行うのがよいでしょう。



⑤収穫 (夏)

一番目の果実がふくらんできたら追肥を始めます。収穫は必ずハサミを使うこと。無理に引っ張ると枝や茎を痛める原因になります。実を鳥や小動物に狙われるようであればネットで保護することも考えます。枯れてきた下葉は病気予防のためにも摘み取りましょう。



⑥収穫 (秋)

秋になっても気温が20度以上あれば、トマトはまだ生長します。長期間育てる場合は8月の芯を止めて新しいわき芽を伸ばしましょう。また肥料切れのないように追肥はしっかりと行いましょう。